

今回は、5月27日に行われました口腔顔面痛ベーシックセミナー 2018 について、九州大学 口腔顎顔面外科学分野の大山順子先生に報告していただきます。

口腔顔面痛ベーシックセミナー 2018 参加報告

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野 大山 順子

本年度の口腔顔面痛ベーシックセミナーは2018年5月27日(日)に九州大学病院キャンパス内の九州大学歯学部講義室にて開催された。一昨年から開催されている本セミナーは新入会員及び非会員などを対象とした入門・レビューセミナーであり、口腔顔面痛に対して日常臨床での疑問や問題を抱えている多くの歯科医師にとって必要な知識を得る絶好のセミナーであることは言うまでもなく、日常より口腔顔面痛の治療にあたっている会員の方々にも十分満足の得られる内容であった。今回は地元での開催ということで、昨年に続いて2年連続でベーシックセミナーに参加させていただいたが、昨年の本学会の各種セミナーに参加させていただいて得た知識を整理し、確認することができた。

まず、村岡渡先生(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)から本年度本学会が主催する各種セミナーについてのご紹介があった後、石垣尚一先生(大阪大学 クラウンブリッジ補綴学分野)の「**口腔顔面痛学の魅力と概論**」と題した痛みの発生メカニズムについての講義から始まった。この講義の中で口腔顔面痛外来に来院される患者さんにはすでに抜髄や抜歯などの不可逆の処置を受けて来院される方がいることも示され、非歯原性歯痛についても知ることで、歯の痛みを確実に診断して不要な不可逆の処置を行わない歯科医師になるよう、本セミナーで口腔顔面痛についての知識を深めていくようにとのお話があった。



村岡 渡 先生

次に「**必須の痛みのメカニズムと薬理作用**」と題して篠田雅路先生(日本大学歯学部 生理学講座)から、痛みの情報伝達について受容器、受容体、神経線維、情報伝達経路、情報伝達物質、シナプス伝達経路とシナプスの可塑的变化についての基礎知識の概説、各種薬剤の作用機序についての詳しい説明があり、日常使用している薬剤の薬理作用を確認することができた。



会場風景

引き続き椎葉俊司先生(九州歯科大学 歯科侵襲制御学分野)から「**痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際**」と題して日常臨床で遭遇する事の多い4つの典型的な症例について、痛みの構造化問診票を用いた症状の整理、検査から診断を行い薬物療法に至る流れ、それぞれの症例で用いる薬剤の作用機序と使用上の注意点についての説明があった。「痛みの構造化問診」という言葉を初めて聞いた受講生は、若干戸惑った様子で、会場内がざわついた。

次に前川賢治先生(岡山大学 インプラント再生補綴分野)から「**痛みのための医療面接とは**」と題して「**メディカルモデル**」での

医療面接の必要性について説明があり、痛みの構造化についても再度詳しく説明があった。また、既往歴、全身状態やそれぞれの器官系についての聴取方法とその必要性、特に脳神経診査の必要性についても解説された。口腔顔面痛が初発症状で歯科医のもとを受診したが、原疾患は頭蓋内腫瘍であったという事例もあるので、脳神経診査で除外診断を行うことが重要であるとの話の時には、受講者は引き締まった様子で聞き入っていた。

午前の最後は鳥巢哲朗先生（長崎大学 歯科補綴学分野）から「咀嚼筋由来の歯痛-筋・筋膜性歯痛について」と題して、非歯源性歯痛の中で頻度が高い筋・筋膜性歯痛について解剖学的構造や筋膜が痛覚を伝える病態生理仮説についての説明があり、トリガーポイントと関連痛について実際の患者さんの症状をビデオ教材で供覧しながら解説された。

午後の部は坂本英治先生（九州大学 歯科麻酔学分野）が「**歯科で生じる神経障害性疼痛**」と題して典型的三叉神経痛、二次性三叉神経痛、歯科手術後の神経障害性疼痛、帯状疱疹痛及び帯状疱疹後神経痛の病態、検査、治療について患者さんの疼痛の様子をビデオ教材も交えて解説された。

次に村岡渡先生（川崎市立井田病院 歯科口腔外科）から「**歯科で役立つ頭痛の知識**」と題して歯痛や顔面痛を呈する一次性頭痛として、片頭痛、緊張型頭痛、三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）、二次性頭痛として顎関節症による頭痛について詳しく解説があった。

質疑応答時間を挟んで築山能大先生（九州大学 歯科医学教育学分野）から「**診断に導く臨床診断推論とは**」と題して疼痛構造化問診から鑑別診断を挙げ、見逃してはならない疾患から優先順位をつけて検査を行い、診断を進める方法についての概論が示された。



築山 能大 先生

続いて村岡渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）の指導のもと臨床診断推論の「**症例デモと症例体験**」を行った。今回は1症例の疼痛構造化問診表を作成し、Key 症状を探し、鑑別診断を挙げ、その確認のための検査・問診を行い、総合的に判断を行って最終診断に至るというステップの体験を行った。その際に、このような診断実習は、9月に開催される「口腔顔面痛診断実習セミナー」でじっくりと実習を行うという説明があると、「実際の実習まで受講してみよう」という受講者の声も聞こえた。

最後に確認のための小テストとその解説が行われ6時間のセミナーの全プログラムが終了した。

今回は口腔顔面痛学会主催の口腔顔面痛ベーシックセミナーとして初めて東京以外での開催であった。福岡での開催ということもあってか、70名の受講者の中で九州地区の受講者が32名、中国・四国地区の受講者が8名で半数以上を占めており、その中の26名が非会員であった。「今まで歯に原因はなさそうだが歯や顔面が痛いと言っている患者さんは対応に苦慮して大学病院へ紹介するだけだったが、もっと勉強して患者さんの痛みを理解しなければならない」と話している方や、「今回のセミナーを受講して次のセミナーでさらに勉強をしたいと思ったので学会に入会する」と話している方など、本セミナー受講が大きなモチベーションになった方の声を多数聞くことができた。

口腔顔面痛は多くの歯科医師が直面している疾患であるが、系統的な知識が不足し、診断ができないままとな



坂本 英治 先生

口腔顔面痛は多くの歯科医師が直面している疾患であるが、系統的な知識が不足し、診断ができないままとな

っている場合も多い。ベーシックセミナーはこのように口腔顔面痛についての見識を持った歯科医師を育成するために非常に有意義であり、非会員に門戸を広げたことに加えて、今回のように各地方で開催をすることで、その裾野をさらに広げることができたことは非常に良いことであったと感じた。今回地方開催のベーシックセミナーを企画し、お膝元の福岡でのベーシックセミナー開催にご尽力いただいたベーシックセミナー担当委員長の築山能大先生をはじめとした関係の先生方に感謝し、このベーシックセミナー受講をきっかけに本学会に入会してさらに理解を深めようとする歯科医師が増えることで、口腔顔面痛で苦しむ患者さんを理解し治療に結びつけばと思いつつながら帰途についた。

大山 順子（おおやま ゆきこ）先生のプロフィール

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K001061/index.html>

九州大学 歯学研究院 歯学部門 口腔顎顔面病態学講座

専門分野 口腔外科学、免疫学、病態科学系歯学

1998年8月から2001年8月までアメリカ合衆国バージニア大学内科学リウマチ部門でポスドクとして研究

研究：シェーグレン症候群の病態、発症のメカニズムを細胞生物学的、分子生物学的手法を用いて研究している。

教育：歯学学生および九州大学病院歯科研修医に対して口腔外科学の臨床を指導している。また、大学院生に対して口腔粘膜疾患、シェーグレン症候群の発症機構のメカニズムの解析についての研究を指導している。学部学生の口腔外科臨床実習教育の再構成、歯科臨床研修医の指導システムの再構築を行っている。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp